

佳作

## 少しの勇気と心の大切さ

宮城県 宮城県仙台二華中学校三年 早川 美衣

私は中学三年生になる春休みに、シンガポール交流生徒派遣研修に参加した。四泊五日のホームステイは私にとって初めてで、長いと感じていた。

私はシンガポールに着いた時、とても緊張していた。英会話は小さい頃から習っていたものの、本当に自分の英語が通じるのかずっと不安だったからだ。ホームステイ先の友達とウエストウッドセカンダリースクールで初めて会った時も、ホームステイ先の家族とも緊張して上手に英語で話すことができない。このまま研修を乗り切れるのだろうか。私は不安でいっぱいのままホームステイ初日を終えた。

次の日、ホームステイ先の友達と一緒に中学校に登校し、授業を体験した。正直、現地の人とまだあまり話せていない。今日もこのまま終わってしまうのだろうか、不安とともに焦りも感じていた。こ

れではシンガポールに来た意味が無いではないか。しかし、思うように言葉が出ず、一日の学校生活の半分が過ぎた。私は自分から言葉を発することのできない自分を恥ずかしく思った。すると突然、後ろの席の男の子が

「コンニチハ。」

と話しかけてくれた。それをきっかけとして、周りの人が日本についての質問をたくさんしてくれるようになったのだ。私は感動した。あまり上手とは言えない日本語の「コンニチハ」の一言で、みんなが私に話しかけてくれるようになったのだ。私はそこで気付かされた。今まで私は自分の英語力では伝わらないのではと消極的になり、心を閉ざしていた。しかし、大切なのは上手な英語ではなく、伝えようとする強い心なのだ。私はクラスメイトからの質問に一生懸命英語で答えた。間違ってもいい。発音が悪くたっていい。未熟な英語でも、伝えようとする心があれば人は繋がれるのだ。

それから私は積極的に英語で話しかけ、交流することができた。心を開いてみると、シンガポールの魅力を伝えてくれたり、一緒に観光してくれたりと親切な人ばかりだった。なぜ今まで私はこのことに

気付かなかっただろう。少しの勇気と心の大切さに気付いて、私の思いが伝わり心から感動した。

長いと思っていた四泊五日も実際はあっという間だった。勇気を出して話しかけてくれ、心の大切さに気付かせてくれた少年に心から感謝している。これから国際化が進み、日本でも更に外国人を見かける機会が増えるだろう。もし外国人が困っていたら、シンガポールでの体験を生かし、勇気を出して心で接してみたいと思う。

今年の十一月に、今度はシンガポールの友達がいムステイのため日本に来る。その時は、私がシンガポールで体験した以上に感動してもらいたい。日本の文化やすばらしさを自信を持って心からの英語で伝えたい。こう思えるようになったのは、シンガポール研修で少しの勇気と心の大切さに気付けたからだ。